

日本語教育文法の視点からみた「のだ」の分析

アイニシャー・ニヤズ

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

ainisa_sz@yahoo.co.jp

1. はじめに

日本語の文末表現「のだ」の文法解明に関する研究は数多く行われてきたが、残念ながらそれらの研究成果を日本語の教育現場に十分生かされているとは言いがたい。本稿においては、田野村(1990)と野田(1997)をもとに、日本語教育的な視点から「のだ」表現の分析を試みる。

2. 分析

2.1 まず、文型に基づいて「のだ／のか」の用法をまとめる。

「のだ」について

- (1) 「βのだが、α」 (前置き／依頼・誘い・許可求めを行う)
 - ・ 生花を習いたいんですが β、いい先生を紹介していただけませんかα。
 - ・ ボランティアに参加したいんですがβ、2週間ほど休みをとってもいいですかα。
- (2) 「α、βのだ」
 - ① βがαの原因・理由・根拠・結末などである
 - ・ 花が枯れてしまいましたα。水をやるのを忘れたんですβ。
 - ・ 風邪ひいたみたいα。熱があるんですβ。
 - ② βがαを言い換えたり、要約したりするものである
 - ・ 彼女には夫がおり、彼もまた教師で、彼女と同じ時期に四小で教えていたα。つまり、二人は昔、四小で職場結婚をしたのだβ。
- (3) 「βのだ」
 - ① βが相手に知りたいものである (告白)
 - ・ 実は、私にも同じような経験があるんです。
 - ② 聞き手が認識していないことを認識させるものである (命令・決意・強調)
 - ・ 早くこっちに来るんだ。
 - ・ 俺は絶対勝つんだ。
 - ③ 新しく把握したもの、再認識したものである (繰返し・再認識・想起)
 - ・ (ビールを飲んだ) うまいんだな。これが。

「のか」について

- (1) 「疑問語＋のか」 (不足情報を尋ねる)
 - ① 「どうして／なぜ」＋のか

- ・ どうしてこんなことをしたんですか。
- ② 「どこ／何／どれ／いつ・・・ 十のか」
- ・ 何時ごろ空港につくんですか。
- (2) 「 α 、 β のか」 (肯否質問文)
- ・ 渡辺さんは時々大阪弁を使いますね α 。大阪に住んでいたんですか β 。
- (3) 「 β のか」 (肯否質問文)
- ・ お酒はよく召し上がるんですか。

2.2 「のだ」の働き

- | |
|-------------------------------------|
| ①花が枯れてしまいました。水をやるのを <u>忘れ</u> ました。 |
| ②花が枯れてしまいました。水をやるのを <u>忘れ</u> たんです。 |

①の文章はただ二つの事実を羅列しているため、前後はどんな関係であるかは、聞き手自身が分析をしないと、理解しにくい。②の文章を聞くと、「水をやるのを忘れた」ことは「花が枯れてしまいました」ことの原因であることがすぐ分かる。従って、「のだ」には、

① 文と文（または状況）を繋がる働きがある。

- | |
|--|
| －昨日ショッピングセンターへ行って来ました。
－何か買いましたか。
－はい、買いました。
－何を買った <u>ん</u> ですか。 |
|--|

→「買った」ということが確実に成立している場合に「のだ」が使われる。

- | |
|--|
| －昨日ショッピングセンターへ行って来ました。
－何を買いましたか。
－いいえ、何も買いませんでした。 |
|--|

→「買ったかどうか」が確定できない場合に、「のだ」が使われる。

従って、「のだ」には

② 直前のことを既定化する働きがある

2.3 「のだ／のか」のイメージ

「肯定平叙文」

表(1)

肯定平叙文	「～だ」文	「～のだ」文
意味	事実をそのまま述べる	ある発話(状況)の説明として事実を述べる
共通点	<p style="text-align: center;">伝える</p> <p style="text-align: center;">—————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">事実を (に)</p>	
相違点	<p style="text-align: center;">伝える</p> <p>事実を —————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">そのまま (に)</p>	<p style="text-align: center;">伝える</p> <p>事実を —————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">「ある発話(状況)の説明」として (に)</p>
	客観的に情報を伝えるだけ	客観的に伝える+相手に知ってもらいたい (注意/関心を取り寄せたい) 気持ち

「肯否質問文」

表(2)

		「～か」文	「～のか」文
肯 否 質 問 文	文型	「・・・ですか。」 「はい/いいえ、・・・です。」	「・・・ <u>ん</u> ですか。」 「はい/いいえ、・・・ <u>ん</u> です。」
	イメージ	<p style="text-align: center;">聞く</p> <p>—————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">結果を (に)</p>	<p>「α、βのか。」</p> <p style="text-align: center;">確認</p> <p>—————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">「認識した内容」を (に)</p> <hr/> <p>「βのか。」</p> <p style="text-align: center;">教えてもらう</p> <p>—————→ 相手</p> <p style="text-align: center;">情報を (に)</p>
	関心度	関心度→ あまり高くない。 (はい/いいえ) ————— (ここまで十分) 情報線	関心度→ 高い (はい/いいえ) + α ————— (最低限) (もっと情報がほしい) 情報線

3. 日本語教育現場への導入について

「～だ」文と「～のだ」文はまったく違う意味を持つものであるが、同じようなところによく出てきて、また両者を入れ替えても文自体が成り立つことが多いので、日本語教育現場で非常に紛らわしいものである。本稿においては、「のだ」の習得効果を高めるために、下記のように提案する。

「意味」＋「文型」＋「場面」

即ち、まずは、日本語教育文法としての「のだ」の定義を設ける必要がある。外国人学習者の多くは、「強調」や「原因・理由」など個別な「のだ」の用法を「のだ」の意味として使用しているのは、「のだ」の意味、本質を正しく理解していないからである。次は、具体的な文型に基づいて、それぞれの用法を導入する（学習者のレベルに基づいて、導入内容を決める）。最後は、場面を設定して定着するための練習を行う。

参考文献

- 石井容子（2000） 「日本語学習者による「のだ」文の理解」 『別府大学紀要』40
- 菊地康人（2000） 「のだ（んです）の本質」 『東京大学留学生センター紀要』10号
- 田野村忠温（1990） 『現代日本語の文法Ⅰ―「のだ」の意味と用法』 和泉選書
- 趙萍（2008） 「中国人日本語学習者における「のだ」「のか」の習得
―使用条件と非使用条件をめぐって―」 『日本語教育』137号
- 塚原真紀（1998） 「日本語学習者の会話における「ノダ/ンデス」の使用実態に関する考察」
- 野田春美（1997） 『の（だ）の機能』 くろしお出版
- 是澤範三（2003） 「日本語教育における「のだ」について」 『日本言語文芸研究』第4号
- 山本優子（2002） 「日本語指導における教材提示の問題―「～んです」をめぐって―」
『岐阜大学教養・言語センター』